

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 19 日

札幌市立 太平小学校

1 今年度の重点目標

笑顔あふれ、瞳輝く 太平の子
～主体的に学び、協働を通して磨き合う教育活動の推進～

2 本年度の経営方針

学校づくりは人づくり 【子ども】よさを伸ばす「ほめ言葉のシャワー」
【家庭・地域】保護者を最大の味方に 傾聴し、受け入れ、応える
【職員仲間】学び合い 認め合う 子どもの前に立つ大人こそ、いつも笑顔でいてほしい

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	◎実施内容 ◇改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	あいさつ活動	継続したあいさつ活動への取組	A	◎児童会を中心としたあいさつ活動を継続できた。また、日々の挨拶に何かを付け加える「ハッピー+」の取組を実施し、各学年で挨拶を盛り上げる取組にすることができた。 ◇校内でのあいさつの取組を継続・維持して、地域に広まるあいさつ運動を検討していきたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		地域の中にも、挨拶に関しては様々な人がいます。大人側も子どもの心情を慮る想像力が必要だと思えます。児童の挨拶活動の取組は各学年で考えているのがとてもよかったと感じる。継続することで地域に広がり、笑顔のある地域になることを楽しみにしています。地域でも積極的に挨拶することができると思います。				
人間尊重の教育	自治的な活動	子どもの声を聴く「自治的な活動」の推進	A	◎児童会だけではなく、各学級の係活動などでも子どもたちが主体となる活動を推進することができた。「ハッピースマイル太平祭」は、6年生を中心とした有志による集会ではあったが、全校を取り込む会にすることができた。 ◇主体は子どもではあるが、活動過多にならないように児童の活動を見守っていきたく考えている。	A	A
「学ぶ力」の育成	AARサイクル 主体的に学ぶ	・AARサイクルを意識した「課題探究的な学習」 ・子ども一人一人が主体的に学ぶ「学ぶ力の育成」	B	◎校内の研究研修部を中心に、AARサイクルを意識した授業を構築することを心掛けた。 ◇主体的に学ぶ姿は今後も継続して育てていきたいと考えている。宿題や自主学習、タブレットを活用しながら学習習慣を確立していきたいと考えている。	B	B
「豊かな心」の育成	異学年交流	よりよい人間関係を育む異学年交流の充実	A	◎児童活動部が中心となり、児童の「はるにれ委員会」がリーダーとなって活動を続けてきた。秋の遠足をはるにれ遠足として縦割りのメンバーで取り組むことができた。 ◇今年度からの取組もあったが、継続し学年が上がっていくことによって、児童も「やってもらった自分」を想起しながら「やってあげたい」という思いを培っていきたく考えている。	A	A
「健やかな体」の育成	体力向上	体育の授業での運動時間、休み時間などでの運動機会の確保	B	◎学校行事部が中心となって、縄跳び、マット、跳び箱の運動週間を実施した。休み時間も体育館に集まり、積極的に運動する姿が見られた。 ◇児童の活動を精査することで休み時間にもゆとりを持たせたいと考えている。そうすることで、グラウンドや体育館での遊びを充実させることにつながり、教師も一緒に遊ぶ姿を期待できると考えている。	B	A
いじめ対策	いじめ対応	・互いに認め合い、いじめを許さない風土の醸成 ・自己肯定感、自己有用感を高める教師の関わり	A	◎スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーも参加する校内いじめ防止対策委員会を月1回のペースで実施することができた。全職員が参加することによって、全校児童を全職員で見守っていく風土をつくることにつながった。 ◇いじめは多様化し、年々姿を変えている。実態の交流に加えて事例研修なども取り組んでいくことを検討していきたいと考えている。	A	B
一貫性・連続性のある教育(小中一貫した教育)	奉仕活動	地域に根差した奉仕活動	A	◎パートナー校の太平中学校を中心に、CSの取組を開始することができた。取組の方法、連絡系統など整理する部分など課題は山積しているが、地域の方の理解も含め、職員全体で活動の充実を目指していきたいと考えている。 ◇奉仕活動をカリキュラム上に位置付けることが持続可能な取組への第一歩と考える。年間を見通した活動になるように、検討していきたいと考えている。	B	B
学校関係者評価委員会による意見		「学ぶ力」が実際の「学び」につながっているかの検証は必要かと思えます。限られた時間の中で一人一人の子どもの個性を伸ばすのは大変な忍耐が必要だと思いますが、より一層のTEAM太平を期待します。タブレットの活用が学習習慣につながるのか疑問が残ります。いじめに関する研修で得られた情報や成果などを共有していただけると嬉しいです。				
学校独自に設定する分野	SNS・情報モラル教育		A	◎高学年では外部委託による情報モラルに関する授業を展開することができた。 ◇いじめの多様化と同様に、事例を取り入れた研修を実施していきたいと考えている。	B	B
学校関係者評価委員会による意見		インターネット上では、音となる価値観や心情が異なる人とは議論がそもそも成立しないと考えます。一昔前はデリケートな問題を扱う投稿が炎上目的であることが簡単に見破れたのですが、昨今は釣り針を上手に隠すように巧妙になっています。SNSは議論の場ではなく、自己表現、自己研鑽の場として利用してもらいたい。ファクトチェックの重要性を子どもたちに伝えてもらいたいです。低学年からの情報モラル教育が必要で、基本的なマナーや約束事を身に付けてほしいと考えます。				